

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った事業所運営を行うために法人の理念を掲示している。職員間で確認し、ケアを行う際に役立っている。	法人の理念に沿って「利用者が持てる力を発揮できるよう、尊厳と自己決定を尊重し一人ひとりのライフスタイルを支援する」というケアに取り組んでいる。玄関に理念を掲示しフロア会議で話し合い、いつでも原点に戻りケアに努めている。気になる職員にはリーダーがその場で話をしたり個別に面談している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎日のごみ捨てや買い物ではご近所の方や地域住民の方との世間話がある。創立祭や納涼祭では地域住民を招き、交流する機会となっている。(現在コロナの影響により行えていない。)	自治会に加入し情報を頂いている。複合施設の、毎年行われる創立祭や納涼祭では地域の方々をお呼びして交流しており、利用者の楽しみの行事となっている。多くのボランティアの来訪がありバールンアート、アニマルセラピーなどが利用者にも人気であるという。また、地区にある保育園に利用者の縫った雑巾をプレゼントし喜ばれている。高校生や学生の実習の受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グレイスフル岡谷と第2グレイスフル岡谷が連携を図り、年2クール岡谷市内にて「介護予防教室」を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年4回実施しており、地域住民、利用者様ご家族、役場職員、相談員を施設へ招き、施設の取り組み報告を伝え、頂いた意見はサービスの見直しに役立っている。	家族、区長、介護相談員、市介護福祉課職員等が出席し、定期的に開催している。利用者の状況や地域との連携・協力・行事等の報告が行われ、家族からの要望など活発に意見交換がされ、サービス向上に役立っている。議事録は全家族に郵送し、また、職員には回覧し情報を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	諏訪広域連合または、岡谷市役所の担当職員と連携を図っている。運営推進会議、岡谷市のグループホーム連絡協議会等で連絡を取り合いながら、情報共有し協力を求めている。	市役所との連携が図られており、6事業所を集めたグループホーム連絡協議会が年4回開かれ、情報交換と共に今後の在り方について話し合い協力関係を築いている。認定更新の際は家族に連絡し同席していただいている。毎月1～2回、介護相談員2名の訪問があり利用者も顔を覚えており話をし、帰り際に要望や内容を職員に伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待防止委員会を中心にエリア全体で身体拘束をしないケアについての勉強会をする機会を作っている。	身体拘束に関する研修を法人として実施している。ホームとしても拘束しないケアに取り組んでおり玄関は開錠されている。現在、外出傾向の利用者はおらず全利用者が落ち着いている。家族了解の下、転倒防止のため居室で人感センサー使用の方が若干名おり、また、デイルームでの立ち上がりなどに注意が必要なため椅子に鈴をつけ察知するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止のための勉強会を実施し、全職員に参加してもらい考える機会を作っている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身元引受人より、相談があった場合は、相談に応じられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ケアプラン提示等の際に利用者様の状態に合わせて利用基準等の再説明をさせて頂き、利用者や家族等の不安や疑問点がないか確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、ご家族アンケート調査を行い、利用者様やご家族の意見・要望を取り入れたサービスをできるように努めている。	殆どの利用者が意見や要望を伝えることができる。運営推進会議には複数の家族が出席し意見や要望を聴くことができている。年2回、家族への満足度調査が行われ、頂いた意見はフロア会議で話し合い日々のケアに活かしている。受診時や家族が見えた時にも話をしている。毎月発行される「だるま便り」は写真付きで日々の様子・行事の様子が良く分かり、また、一人ひとりの利用者の様子にコメントが付けられ、更に、大きな紙面で家族にも喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場アンケート、ストレスチェックを実施し運営に反映できるよう努めている。	定例のフロア会議やカンファレンス、毎日の申し送りで意見交換を行っている。法人としての人事考課制度があり、チャレンジ目標を立て研修等にも参加している。職場アンケート調査が年2回あり、職員とリーダー、管理者との面談が定期的に行われ、課題解決に取り組み、意見等も運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上司からの面接や採用条件の見直しを行いながら、職員個々の意見を汲み取るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の毎月の研修・勉強会を数日間日付を設けて開催し参加できる環境を心がけている。外部研修へも認知症に関する内容を中心に年間計画を立て参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡谷市内のGH連合会議へ参加し、市内のGHと役場での情報共有、地域へ認知症の理解を深めてもらうための活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接の中でご本人、ご家族の思いを聞き取り、サービス内容に活かしている。普段の関わりの中でもご本人の言葉を聞き取り、ケアへ取り入れられるよう職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接、初期カンファレンスの場で要望等聞き取りを行い、介護計画書へ意見を反映させながら関係作りをおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態変化に応じてカンファレンスを開催しながらであるが、GHでの生活が困難になった場合は特養や老健等のサービス利用も行えることを説明させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや掃除等の家事を職員だけでなく入居者と一緒に行うことに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や定期受診など、ご家族と一緒に過ごせるよう、配慮を行っている。ご本人の誕生月には家族交流会を行い、家族と過ごす時間を持てるよう活動している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人等の面会も可能である説明を事前に実施しており、面会があった際にはゆっくり過ごして頂けるように環境の配慮を行っている。	家族や親戚の面会時にはお茶を入れ居室でゆっくり過ごしていただけるよう職員が配慮している。毎日の買い物は交代で近所のスーパーや味噌屋さんに行き、店の方とも顔馴染みとなっている。理美容は2ヶ月毎に法人が契約した店よりカットに来ており、利用者とも馴染みの間柄となっている。入居間もない方もカードゲームがきっかけでスムーズに仲間に入ることができている。職員は仲の良い利用者同士の席を隣にするなど穏やかに過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居間もない方や自分から他者へ話しかける様子がみられない方等、職員が間に入り関わるよう心掛けている。家事や行事を通して関わりを持てる機会を取り入れている。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、入院された方で退院後の行き先についてフォローをする等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取り調査だけでなく、ご本人の思いや希望を汲み取れるよう、つぶやかれた言葉の聞き取りの記録、検証しケアに活かせるようにしている。	殆どの利用者が思いや希望を伝えることができる。ホームで行う「利用者様のつぶやき・よかった探し」の結果がいつでも見れるようステーションの壁に貼り付けられている。月ごとに日付、利用者名、内容、応急処置、要因解析などを記入するようになっており、日ごろの利用者の一言を大切に職員間で共有し毎日のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族、関連機関への聞き取りを行いながらプロフィールのシートを作成し職員間で情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なるべく馴染みの生活を送って頂けるよう、環境配備やアセスメントシートの活用をしながらケアに活かすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、普段のご本人の様子を踏まえ他職員の意見を反映した上でご本人とご家族と話し合いを行うようにしている。	一人の職員が2名の利用者を担当している。担当者が中心となりアセスメントを行い、家族の意見を聞きつつ全職員の意見を集約しケアプランアセスメント表を作成している。また、担当者は計画作成担当者と打合せの上介護計画を作成している。介護計画の見直しは6ヶ月に1回実施し、状況に変化が見られた時にはその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をもとに職員間で毎日申し送りをを行い、情報共有を行っている。担当者を中心に意見を吸い上げてアセスメントの作成、介護計画書への反映に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望内容など、ケアへ反映し様子観察を行うよう支援している。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の買い物で地域食材を購入したり、毎月1回ある近所の味噌屋さんでのつめ放題へ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居中も利用者個々のかかりつけ医へ受診を継続できるよう支援し、体調不良など体調変化があった際には連絡し相談するようにしている。	往診の利用者が若干名いるが、多くの利用者についてはホーム利用前からのかかりつけ医を継続しており、受診付き添いは家族が行っている。緊急時の受診はホームで対応している。また、家族が協力的で薬が切れる前に受診している。更に、訪問看護ステーションと契約し毎週火曜日看護師が来訪し健康チェックや健康相談が行われている。歯科については医師会の協力で医療医関が紹介されており、受診、往診などが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、岡谷病院の訪問看護ステーションより訪問してもらい、利用者の健康状態の把握に努めている。昼夜問わず、体調に変化があった際には相談する体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院である岡谷病院、釜口医院へ日頃より情報交換、相談をおこないながら、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合の指針について説明を行っている。状態変化に応じて事業所で行える支援方法を協議し、区分変更や特養申請等も行いながらサービス変更の準備を実施していくようにしている。	法人のグループホームとしては看取りを実施しない方針であるが、他の施設等への住み替え直前まで支援している。契約時に重度化した場合の指針について説明し状態変化に応じて家族や主治医、職員と話し合い、医療機関や法人内サービス(特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等)への住み替えなどの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに沿った対応ができるよう、研修の機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力的体制を築いている	年2回全館合同で避難訓練を実施し、非常事態に備えて行うべき手順、誘導ルートの把握を行っている。	年2回避難訓練を実施し、その内1回は夜間想定としている。避難訓練では利用者はタオルで口を覆い歩ける方は1階に下り、玄関の外に避難する訓練を行っている。その際、近隣住民の協力を得て誘導のお手伝いをしていただいている。消防機器設備業者による点検指導も行われ、食料品・介護用品の備蓄もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者へ視線を合わせた介助や言葉使いに配慮をした介護をおこなうよう教育している。	法人として接遇マナー研修が毎年行われ全員受講している。一人ひとりの人格を尊重した優しい声かけができるよう心がけ、利用者の目線に合わせて腰をかがめて声かけしたり、隣に腰掛けて話し、言葉遣いにも気をつけている。時間に余裕がない時などに稀に利用者への語調が強くなることもあるため職員同士お互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のレクリエーションや交流を通して利用者自身に選択して頂く機会を設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや入浴のタイミングなど利用者自身に選択して頂いている。ご希望に沿ってケアを提供できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は外行きの洋服を着ていただくことや、化粧をして頂くなど、個々に合わせた支援をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物の際に食材を選んでいただいたり、利用者様の希望に沿ったメニューも取り入れながら提供を行っている。	声かけや一部介助の方がいるが全員箸を使い常食を食べている。法人の、同じエリアのグループホームとして献立表を決めており、食材は毎日、利用者が交代で職員と買い物に出掛けている。利用者の希望で好きなメニューに変更することもある。毎食、利用者のお得意の場面で力を発揮していただき、準備から調理、配膳、片付けまで職員と一緒にやっている。食事時間中はテレビが消され、オルゴールのBGMが流れている。誕生日会には家族を招き利用者の希望のメニューを一緒に作り、ケーキも手作りして楽しみながらお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取も飲みやすい内容へ変更したり、食器の置き場所を工夫しながら声かけを行い、栄養摂取をして頂けるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけすることで歯の内側も磨ける方や、マウスウォッシュも併用し口臭予防する方等個々にケア内容を把握し支援している。		

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツゼロの取り組みを行っており、リハビリパンツから布パンツとパットの使用への切替や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が行えるよう支援している。	自立の方が三分の二ほどで、一部介助と全介助の方が若干名ずつとなっており、半数弱のかたが布パンツを使用し、紙パンツ使用の方が三分の一となっている。毎月フロア会議で話し合い、利用者の排泄パターンを把握しつつオムツゼロの取組みを行い、トイレで排泄できるよう声がけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを把握しながら、食物繊維や水分摂取状況の見直しを行っている。訪問看護師に相談しながら腸の動きの把握にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日やタイミングは固定しておらず、午前と午後に入浴を実施しており、利用者の気分に合わせて選択して頂ける支援を行うよう心掛けている。	週3回、利用者の希望に合わせて午前2名、午後3名とし、利用者と職員が1:1で入浴している。自立で見守りの方が三分の二、一部介助の方が三分の一おり、浴槽の階段が急なため工夫し入浴支援をしている。入浴が楽しみな利用者が多く、レクリエーション係が入浴剤を変えたりして喜んで入ってもらえるような工夫もしている。入浴を拒む方には日や時間を変えて入浴していただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度・湿度調整、光や音等の環境配慮をおこないながら、利用者へお聞きし安心して過ごしていただけるよう支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員を中心に他職員への情報共有を行いながら利用者個々の現状把握に努めている。服薬マニュアルテストを実施し、日々のケアを見直す機会を設けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の関心や得意分野を活かした役割、できること探しをおこないながら、趣味を活かした生活を行えるよう支援をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物支援や、天候の良い日やドライブに出掛けるなどの活動を行っている。旅行や行事の際には家族へも参加を促し、一緒に過ごしていただく時間を設けられるよう支援している。	年間外出・行事レクの月間担当表があり家族にも参加をお願いし一緒に過ごす時間を大切にしている。スーパーへの買い物、公園への散歩、いちご狩りに紅葉狩りなどで外出している。今年度は新型コロナウイルス禍、行事が中止になることが多いが、お盆に施設入口で花火会を行い気分転換を図ったという。	

グループホームグレイスフル岡谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理方法は各利用者様によって様々だが、買い物へ出かけた際等使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があった際には、電話ができることをお伝えし対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温チェック表を用いながらの温度管理、天候に合わせてカーテンの開け閉めや換気を実施している。	食堂兼デイルームは広々として明るく台所は使い勝手が良く、昼食後洗い物をする利用者の姿を見ることができた。大きなソファが3ヶ所に置かれており、横になりお昼寝をされる利用者もいるという。壁にはコメントの付いた行事の写真や「だるま便り」が貼られ、スッキリ分かり易い掲示となっている。ホームのテラスは広く、そのスペースで利用者が洗濯物を干したり外気浴、プランター栽培などを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後など、ご希望により共有スペースのソファや個別の居室で過ごせるよう、声かけや誘導を行うよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持参して頂き、居室内の装飾や家具の位置等お聞きしながら、居心地の良い環境で過ごしていただけるよう配慮を行っている。	居室の表札には花の写真が添えられ優しさを感じられる。居室内には洗面所が設置され、馴染みのベット、タンス、ハンガーラックが持ち込まれている。職員から贈られた誕生日メッセージカードや法人理事長からの卒寿祝いなどの賞状が飾られている。居室内も整理整頓され心地良く過ごせるように配慮が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札は個々に好きな花を取り入れて掲示しており、下駄箱への名前の明記や物品の用意など個々に合わせた自立へ向けたケアを行えるよう支援を行っている。		